

平成24年7月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成24年7月27日(金) 午後1時30分
- 2 場 所 市庁本館3階 議会第1委員会室
- 3 委員氏名
- |          |       |
|----------|-------|
| 委員長      | 平山 幹雄 |
| 委員長職務代行者 | 岡本 潤子 |
| 委員       | 小柴 一弘 |
| 委員       | 武輪 節子 |
| 教育長      | 松山 隆豊 |
- 4 職員氏名
- |              |        |
|--------------|--------|
| 教育部長         | 芝 俊光   |
| 是川縄文館長       | 小林 和彦  |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 佐藤 浩志  |
| 教育部次長        | 四戸 康雄  |
| 図書館長         | 津取場 重行 |
| 博物館副館長       | 澤田 多嘉男 |
| 学校教育課長       | 齋藤 信哉  |
| 北地区給食センター所長  | 中里 親弘  |
| 東地区給食センター所長  | 板橋 稔   |
| 南郷地区給食センター所長 | 小林 啓作  |
| 教育指導課長       | 嶋脇 郁夫  |
| 社会教育課長       | 船田 泰寛  |
| 是川縄文館副館長     | 前田 美智子 |
| 総合教育センター所長   | 井上 貫之  |
| 市史編纂室長       | 藤田 俊雄  |
| 教育総務課副参事     | 小笠原 光則 |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤 正樹

平山委員長	<p>ただいまから、平成24年7月の教育委員会定例会を開会します。</p> <p>本日の議事録署名は武輪委員を指定します。</p> <p>それでは教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いします。</p>
松山教育長	(資料に基づき説明)
平山委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いします。</p> <p>(質疑なし)</p>
平山委員長	<p>これより議事に入ります。</p> <p>本日提出されております議案を審議いたします。</p> <p>それでは、議案第28号「八戸市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について」事務局から説明願います。</p>
齋藤学校教育課長	(議案第28号「八戸市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について」に基づき説明)
平山委員長	ただいま、議案について説明がありましたが、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。
武輪委員	確認ですが、現在の在園児8名は、8名ともいわゆる年長の児童ということで、来年の4月には小学校に入学するということでしょうか。それともまだ就学前の子どもが8名の中にいて、来年の4月で閉園になった場合に転園となる在園児もいるのでしょうか。
齋藤学校教育課長	全員、来年小学校に入学する子どもたちです。
武輪委員	分かりました。
平山委員長	<p>それでは、議案第28号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
平山委員長	ご異議がありませんので、議案第28号を原案のとおり決定いたします。

<p>平山委員長</p>	<p>以上で、議案の審議は終わりました。</p> <p>次に報告事項ですが、「平成24年度第1四半期の業務報告について」は、事前に資料が配布されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたらお願いいたします。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>質問ではなく要望なのですが、学校教育課の小・中学校適正配置に関するところですが、お願いとして、適正配置に関して出向いたり、保護者や地域の方々への説明会なり話し合いが行われるときに、できればなるべく早い段階で、例えばどここの公民館で、どここの学校で話し合いを行うというのが決まった場合に、できるだけ早くその地域の方々にお知らせいただいて、たくさんの方にその場に来ていただいて、話し合いをしていただきたいと思います。何度も教育委員会のほうで、適正配置に関する説明会なども各地域で行われておりますが、保護者なり地域の方の出席率が低い地域もたくさんあるのではないかと思います。ですので、日にちが決まりましたら早い段階でお知らせいただいて、保護者の方なり地域の方にお話を聞いていただく機会の場に足を運んでいただけるようお願いしたいと思います。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>今現在、この適正配置事業については、短期の課題が挙げられている地域を中心に、それぞれの地域で検討会というものを立ち上げていただいて、そしてそれに我々が同席しながら検討を進めているところです。それぞれ地域によって進捗状況が違いますけれども、現在検討委員会で一番多いところは、第6回を重ねている地域もあります。また2回、3回というふうに、それぞれ進捗状況は違うのですが、これから検討会で話し合われたことを踏まえて、今委員さんからお話があったように、地域への公聴会そして説明会を開催していく予定です。お話が出ました部分は我々も同じ思いで、地域にとにかく理解をいただくということで、周知の方法あるいは参集等の部分についても、学校とも連携をしながら方法を考えていこうと思っています。よろしく申し上げます。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>13ページの図書館の4番の雑誌スポンサー制度についてお聞きしたいのですが、これは事前に私も確認していなかったんですけれども、いつからの事業だったのでしょうか。今年度からでしょうか。</p>
<p>津取場図書館長</p>	<p>これは今年度からの事業です。今年初めてです。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>そうしますと事業者というのは、雑誌を発行している事業者ではなく、そういう雑誌社ではなくて、どなたでもいいということになるのでしょうか。個人でも</p>

	<p>それから企業でもどなたでも、そのスポンサーになって1年分を提供しますよというような内容の趣旨でよろしいのでしょうか。</p>
津取場図書館長	<p>個人といいましても事業をやっている方、個人営業をしている人でもいいですし企業さんでももちろんいいです。雑誌の1年間分の購入費用を出してもらって、広告は表表紙は小さめ、裏表紙は一面に出すものです。それで事業をやっている方、個人でも、法人でなくてもいいですし企業でもよろしいです。</p>
岡本委員	<p>これは何か事業名とかあつての事業ではなくて、単独の広告という主旨の考え方のもので理解してよろしいのでしょうか。</p>
津取場図書館長	<p>特に、事業名というのはないです。ただ役所全体の行政改革の中で、収入の一環として広告を入れるというものがあります。その趣旨の一つです。</p>
岡本委員	<p>はい、分かりました。ありがとうございました。</p>
小柴委員	<p>11 ページの6番のところで、16mm 映写機のことなのですが、これの使用状況は実際どの程度使われているものなのか。それからもしこの機器が壊れた場合に、修理が現在可能な状況にあるのかどうか。それからこの研修というのはどこからか義務付けられているものなのか。それから私はほとんどもうこれに触れる機会がないもので、ちょっと違和感があつて読ませてもらったんですけども、むしろやるとすればそれまでのフィルムのデータ変換なりを考えたほうが得策じゃないかなということもちょっと感じましたのでその辺お願いします。</p>
井上総合教育センター 一所長	<p>この三八視聴覚教育連絡協議会というのは、三戸郡の町村と八戸市がお互いにお金を出しあつて教材を購入するという事業で、八戸市が幹事となつて八戸市長が代表を務めているものです。現在は指定管理者になっておりますけれども八戸市視聴覚センター児童科学館ということで、視聴覚センターの中に教材を管理しております。</p> <p>委員さんご指摘のとおり、16mm のフィルムはまず1本当たり20万、30万するような非常に高価なもので、それを映画という非常に教育的効果の高いものということで、昭和の20年代、30年代にそれらを整理して、各町村で映画会を開いたりというようなことで活用してきたものです。現在、私の記憶ですので定かではございませんけれども、4、5年購入はしておりません。それで県のセンターのほうでは16mm フィルムをDVD等のメディアに焼き直すというような機械もございしますが、著作権の処理が非常に難しく、現在所有しているものをDVDに換えるというのは難しい状況にございます。ただ販売されているDVDであると</p>

かVHSのテープの中には、かつて 16mm であったものを配給会社のほうでそういったものにして再び販売するというような形もとられておりますので、よい作品に関しては、希望を年2回とって町村及び各教育団体等からの要望に基づいて購入しておりますけれども、そういった形で購入するという形になっております。

16mmの機械そのものでございますけれども、メーカーのほうでも生産が打ち切られたりしているものもございまして、まだ今のところは修理には対応できる状況ですけれども、一番はランプの部分であるとか、それから歯車が動く部分に関しては段々部品が入手し難くなっております。各町村で映写機等を持っているのですけれども、それらも1ヶ所、八戸市視聴覚センターに集めて管理したほうがいいのではないかというような意見も出始めております。ただこの場合は、町村で使う時に、振動に弱いものですから、安全にその場所までどうやって持って行ったらいいか等、解決しなければならない問題もございます。

16mmフィルムは高価なものだけに、監督さんが非常に思いを込めてしっかり作られていると、DVD等が簡単に作られているということではないんですけれども、しっかりしたものということでよい作品がたくさんありますので、各町村の担当者にも是非 16mm 映写機で映画を見る会等を企画して、真っ暗な中でよい作品を子供たちに見せると、それだけでかなりな教育的効果がございますので、ある作品をできるだけ有効活用していこうということでお話しているところです。まずこれからも恐らく 16mm の新規購入というのはなかなか出てこないのかなとは思っておりますけれども、現在そういう形でしっかり八戸市で管理して進めているところでございます。

資格に関しては2日間にわたる講習で修了者証というものを発行しております。これは機械とそれから何よりも 16mm のフィルムはいったん傷が付くともう修復ができませんので、そういう傷を防ぐために行っているもので、今回新しく視聴覚センターの職員として三八五ふれあいネットで採用した方、それから保育所の方、そういった新しく三八視聴覚教育連絡協議会に登録団体として登録された方々が参加して、参加者6名という形で実施しているものです。これは講習者の資格というのは特にないんですけれども、しっかりした指導、助言ができる方を講師にして毎年開いているものです。

小柴委員

分かりました。

平山委員長

私のほうから2、3お尋ねします。5ページの11番、教育研究指定事業に関してありますが、⑤に小中一貫教育(3年目)とありますが、3年目となれば発表か何かあるものかどうなのか教えてください。

<p>嶋脇教育指導課長</p>	<p>この指定事業につきましては、学校の主体性に任せるということになっておりまして、必ずしも公開発表するということにはなっておりません。私、昨年度、指定校でありましたけれども私の場合は全体に公開するというようなこともいたしました。学校によって違うということでございます。</p> <p>もう1点今のところで、「下記の5校に指定書を交付した」ということになっているんですけども、①②③④⑤⑤で⑤が2つありますが、下の田代小・中学校につきましては、これは組合立教育委員会のほうで指定しているということになって、これは米印といいいますか括弧というようになっています。市のほうでは根城中学校までの5校、それから組合立のほうで田代小・中学校ということになっております。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>そうしますと組合立のほうは発表するかどうかは捉えていない、把握していないということですか。</p>
<p>嶋脇教育指導課長</p>	<p>はい。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>いつ頃になれば分かりますか。</p>
<p>嶋脇教育指導課長</p>	<p>全体についてですか。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>組合立の3年目のものです。</p>
<p>嶋脇教育指導課長</p>	<p>今のところ把握しておりません。</p>
<p>芝教育部長</p>	<p>八戸市教委の所管ではなく、田代組合の所管になりますので。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>所管が違うという話がありましたが、連絡を取り合って分かったら教えてください。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>それから9番です。小・中学校ジョイントスクール推進事業ですが、2行目に授業改善、学力向上に当事業の効果的な活用を云々とありますが、これまでこの事業で、市で行っている確かな学力の保証に直接影響している成果を上げている学校がありましたら、1、2校でいいですから教えてもらいたいのですが。課長さんは4月からですので後でもう1回聞きますが、昨年の四戸次長さんにまずお尋ねして、それから嶋脇課長さんにお尋ねしたいと思います。1、2校でいいですから、ここはうまくいって成果を上げているというのがあったら教えてください。</p>

四戸次長	<p>今ちょっと具体的な学校まで思いつきませんが、まずこれまでもお話ししてまいりましたが、小学校・中学校連携して、それぞれの学力調査の結果を持ち合って、それを基に話し合いをするであるとか、家庭学習のあり方、やり方等について共通実践を行うとか、そういったことで学力の向上あるいは授業改善に向けての取組ということにつきまして、各中学校区ともかなりやられてきていると捉えております。一昨年よりは去年ということで、私は2年間の訪問だったんですけども、ジョイントスクールのテーマとか学校目標ですとか、そういったものも学力向上あるいは授業改善ということに移ってきているというふうには捉えています。</p>
平山委員長	<p>はい、同じ質問です。島脇課長さんお願いします。</p>
嶋脇教育指導課長	<p>具体的にとなるとちょっと難しいところもあるんですけども、昨年度ジョイントスクールの発表会に行きましたけれども、小中野中学区の発表があって授業づくりだとか、板書等の細かいところまで一緒になって進めているというところが非常に効果的であったというようなことがありました。それから特定した学校ということにはならないんですけども、ジョイントスクールを通して、10年ほど前に指導主事で学校を回っているときとは大きく変わったと思うことがいくつかございます。一つは中学校の授業がずいぶん変わってきたと捉えています。例えば以前であれば、どちらかという教師主導の説明で子供たちがそれを聞いているという、そしてノートに書き写すというふうなスタイルが多かったんですけども、資料を提示したり子供たちに分かりやすいように工夫をするようになってきているという様子が見えてきました。このことはジョイントスクールで小・中の先生方がお互いに小学校、中学校の授業を見合う中で、中学校の先生方が小学校の授業の良いところを学んで活かしているというようなところがかなり見えてきていると思います。また小学校においては楽しい授業ということはずっと前からあったんですけども、なかなか定着ということに関してはあまり重要視していないところも感じられたんですけども、これもまた小・中の授業交換をする中で、しっかり定着させるのだというふうなところを中学校の先生方から学んで、定着の部分を非常に大事にしている学校が出てきているなというように捉えております。</p>
平山委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
齋藤学校教育課長	<p>学校教育課も訪問をしておりますので、その視点でもって小中連携というところで少し気がついたところをお話させてください。今年度、学校教育課のほうでは学校目標ということで、5月の連休明けに全小・中学校の校長先生方と面談を</p>

	<p>して、今年度の学校目標をということで教育長に報告いただきました。その中で小学校は約92%が基礎基本の定着、確かな学力、そういう部分に焦点化した学校目標を掲げております。また中学校のほうもそれに連動したように、確かな学力の向上という部分で目標を掲げた学校が約60%、また直接は目標として掲げてはいないんですけれども、それに影響する例えば思いやりとか生活習慣とか、あるいは心の育成といったものを学校目標に掲げたところがあります。学校訪問を通じてその進捗状況をいろいろ確認しながら、またときにはそれに対してアドバイスをしてということで一学期中訪問をしてまいりました。一学期に33校の訪問が終わって、その中で特に今の学校目標を踏まえて小中連携してやっているなどというふうに感じた学校は、学校名をあえて挙げますけれども、例えば白銀中学校とか湊中学校とか、それぞれの学校が学力という部分をしっかりと捉えて、小中連携してやっていく、そういう体制づくりも生まれているということを学校訪問を通じて感じました。また先ほどから出ております組合立になりますけれども、小・中併置校ということで、田代小・中あたりはこれまで小学校、中学校の連携でもって確かな学力という部分もしっかりやってきた。そこもまた継続してやっているということも訪問を通じて感じたところでした。学校教育課訪問からの所見ということで申し上げました。</p>
平山委員長	<p>今の92%ととか60%というのは、今年の数字ですか。</p>
齋藤学校教育課長	<p>はい、そうです。</p>
平山委員長	<p>これまではどんな数字なんですか。</p>
齋藤学校教育課長	<p>これまでは、ちなみに昨年度の学校目標の状況でいくと、表現力・書く・話す・言語活動これ为目标に掲げた学校が20校ありました。それから確かな学力・基礎学力これが16校、これは小学校です。そして学び合いとか生活習慣ですとか、あるいは思いやり、心の育成というものが数校ずつ。これが今年度に入って表現力・書く・話す・言語活動これが9校、それから確かな学力、基礎学力というのが16校から26校というふうが増えております。あとそれを支える学習習慣・生活習慣それから姿勢とかそういう部分に視点をあてた学校目標が7校になっております。小学校だけですけれども以上です。</p>
平山委員長	<p>今課長さんからお話された数字が上がっているという話、これ私も捉えていました。</p> <p>4月にそのジョイントスクールのあり方を見直そうと小中で話し合いをした、そしたら基礎基本のほうに移ってきたという話を何校かから何人かから聞きま</p>



	<p>すから、たぶんこれは間違いないと喜んでおります。こういうふうには反省して検証してやってみて、じゃあこうだったというのが欲しいわけなんです。いつまでも同じ形で同じようなものを検証もほとんどしないままできたらうまくないんだということを言いたくてこれを取り上げました。今の話分かりました。学校名もいくつか出てきましたが、よくよく過去をずっと調べてみればどう変わってきているか分かりますからね。私もいただいた資料を調べて、これで連携してうまくいっていると言えるのかということもありますので話題にしているわけがあります。どうぞ、皆さんお願いしたいと思います。</p> <p>もう一つ同じ角度なんですけれども地域密着型教育推進事業というのがありますが、これが非常にうまくいって基礎学力の保証に連動していると言える学校、小・中とも、1、2校あったらいいですから教えてください。</p>
四戸次長	<p>今、地域密着型教育推進事業につきましては、今年で5年目を向かえるということで54校という数まで増えています。当初スタートは2校から始まりまして段々増えてきているわけですが、地域密着型の成果として一般的なものはいろいろあるわけなんですけれども、直接その学力というところに出ているということになると、まだちょっとそこまでは捉えてはおりません。</p>
平山委員長	<p>新しく課長になりました嶋脇課長さんはどう見えていますか。</p>
嶋脇教育指導課長	<p>今の四戸次長の話と同じ状況であります。まだ全ての学校が取り組んでいる状況ではなくて、これからまだ取り組むというような状況で今ちょうど過渡期だなというふうに捉えております。そしてその学力直結ではないのですけれども、学びの環境づくりについてはだいぶ出来上がってきているなど感じておりますけれども、その結果学力が伸びたというふうなところまではまだ把握しておりません。</p>
平山委員長	<p>はい、もう少し時間をかけてみましょう。分かりました。</p> <p>先ほど授業の話が出てきてまして教師主導型から変わってきたという話がありました。何か私を感じるところでいきますと、小学校高学年は教師主導型がむしろ増えたんじゃないか、つまり子どもがああだこうだという質疑がほとんどない、中学校みたいになってきたと。中学校はどうかといえばさらにそうやってきたと感じていて、つまり子どもの質疑とか子供に負荷をかけるという発問もない。質疑応答が小学校高学年から中学校にかけてほとんど感じられないと。たぶんあの日だけなのでしょうけれどもね。この前も、たぶんこの日は緊張してそうなのだろうという話は聞きましたけれども。皆さんは広く学校訪問しておりますからどうなのかね。今の学習指導要領で強調されている言語活動にしる、授業で</p>

	<p>鍛えるんでしょ、中心はね、他はいろいろあるでしょうけど。まず授業の質疑応答をして、それに対して子どもたちがああこうだと質問をしてそこで筋道たった論理の思考が進むのだと思うのだが、まず見られない、感じられないということが、さっきお話したのとちょっと合わないのですけれどもどうですか。</p>
<p>嶋脇教育指導課長</p>	<p>私は先ほども述べましたように実感としては変わってきていると捉えております。確かに言語活動ということで話し合いの場を設定するだとかいうことも指導案ではかなり取り上げられてきております。意識もされているなというふうに感じております。ただ、今の委員長さんのご指摘のように、その中身についてのどの程度深まったのかというあたりは、非常にどの学校でも課題ではあるというふうに捉えておりますが、小学校も話し合いながら考えを深めていくという授業を大事にしているし、中学校のほうもずいぶん以前に比べると変わってきているなと捉えています。結構そのような授業もありました。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>指導案、言われてみますと書かれているんだよね。これからも現場指導よろしくお願ひしたいと思います。それから田代小・中の3年目の話であります。指導にはこちらから出向いているのでしょ。学校訪問するでしょ、市の教育委員会が。</p>
<p>四戸次長</p>	<p>しております。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>しているんだよね。先ほど所管が違うというお話がありましたが、3年目でどのような発表するのかどうか、こちらで把握できないものなのですかね。あとでもいいですから。</p>
<p>四戸次長</p>	<p>年間計画書は出ておりますので、それによって分かります。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>はい、よろしいです。それを教えてください。あとでいいです。</p>
<p>津取場図書館長</p>	<p>先ほどの岡本委員からの雑誌スポンサー制度の補足説明ですけれども、決定した2つの事業者ですけれども、1つは喫茶店です。図書館の近くの喫茶店で、購入代金を払う対象の雑誌は確か「クロワッサン」という家庭雑誌の購入代金の負担をしてくれるという喫茶店さんが1つあります。それからもう1つはハンコ屋、印章店がスポンサーになりました。対象の雑誌はちょっと忘れたんですけれども、2つの事業所は喫茶店とハンコ屋です。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>では、次に移ります。平成24年度第2四半期の主な事業予定について委員の</p>

	<p>皆さんから質問がありましたらお願いいたします。</p>
平山委員長	<p>一つお願いします。7 ページの是川縄文館であります。前に聞けばよかったです。先日程なわれました学芸員とともにという遺跡ツアーのことです。あれは参加者というのはどれぐらいあるものですか。</p>
前田是川縄文館副館長	<p>学芸員と歩く是川遺跡ツアーですが、7月7日と8日の2日間、午前・午後の計4回ですが、参加人数は計31名でした。</p>
平山委員長	<p>はい、ありがとうございました。私はこれに参加して大変感動しましてね。すばらしいと思って。若い学芸員でしたがよく勉強しているなと思って、八戸にもこんな大きな財産があるのだと思ってさまざま感動しました。それであれは八戸市の新採用になった教員の皆さんはあれを勉強しているものなのですか。</p>
井上総合教育センター所長	<p>新採用の研修の中に八戸の文化歴史を知るということで、1日設定されていて、是川縄文館長のほうから実際にレクチャーを受けたり、また縄文の土器づくりを体験したりというようなことを行なっております。</p>
平山委員長	<p>もう一つ、八戸市の職員になる新人の方たちはやっているものですか。</p>
小林是川縄文館長	<p>是川縄文館に関しては、今年は新採用の職員の施設見学みたいなものがあった、それが回ってきていました。1時間ぐらい見学するというのが一応研修の中に入っているというようなことです。</p>
平山委員長	<p>先ほど井上所長の話もありましたが、私が今回2時間半、それでもちょっと時間足りなかったくらいで、それが中身はものすごく濃いですね。ですから八戸市の新しく新採用になった先生方も、作るのも良いし、聞くのも良いし、見るのも良いと思いますけれども、今回ものすごい中身でしたからね。それから市の職員も是非やったほうが良いんじゃないかと感じましたが、どういうふうになればより良いんでしょうね。委員会としては難しいものでしょうかね。1時間どころじゃなく2、3時間かけてと思うのですが。</p>
芝教育部長	<p>市の職員全体につきましては教育委員会のほうからどうこうということは言えないのですけれども、宣伝してまいります。やはり八戸市に誇りを持った職員を育てるということは大事なことだと思っておりますし、そういう立場から宣伝して参ります。</p>

平山委員長	<p>お願いします。ありがとうございました。</p> <p>あとはありませんか。それでは次に移ります。</p> <p>それでは次に、「八戸市教育振興基本計画について」報告を受けることとします。</p>
佐藤次長兼 教育総務課長	<p>(資料「八戸市教育振興基本計画について」に基づき説明)</p>
平山委員長	<p>私から一つ、メール等というのほどなたにメールすればよろしいですか。</p>
佐藤次長兼 教育総務課長	<p>教育総務課の課代表でも、佐藤主査のアドレスでも構いません。</p>
平山委員長	<p>はい、分かりました。</p>
平山委員長	<p>資料3の3ページに少し気になったところがありまして、成果の2番目、耐震化は文句ないと思いますが、その次のところ、義務教育9年間における学びの連続性を確保しているというところで、そう言えるのかどうか。何をもってなののお尋ねしたいのですが。</p> <p>今答えるのも大変だと思いますので、またの機会にしますか。</p>
平山委員長	<p>それでは次に移ります。「学校給食用食材の放射性物質検査について」報告を受けることとします。</p>
齋藤学校教育課長	<p>(資料「学校給食用食材の放射性物質検査について」に基づき説明)</p>
平山委員長	<p>ありがとうございました。ご質問などございますか。</p>
武輪委員	<p>保護者としてたいへん大事な食に関する放射性物質についてですけれども、八戸市では水揚げされたタラからも検出されて最終的には廃棄処分という形になりましたけれども、今の話ですと前日に調べて、もし 50 ベクレル以上あって精密検査をした場合に高い数値が出た場合はその食材を使わないとすると、その次の日の献立が変わるということでしょうか。その対処方法、例えば同じようにタラから出た場合にそのタラを使わずにメニュー変更という形の対処方法はどのように行われるのですか。</p>
齋藤学校教育課長	<p>前日にそういう 50 ベクレル以上が出た場合には原則その食材は使わない。そ</p>

	<p>してメニュー変更ということになります、ただその抜けたメニューに代替する品物を早急に確保するという部分、可能な限り努力してまいります、場合によっては確保できないままその部分はなしというような事態もあると思います。</p>
武輪委員	<p>もう一つ質問があります。検査する方は5階の倉庫で教育委員会の方がするという事ですか。</p>
齋藤学校教育課長	<p>今月 20 日に、その検査機器が設置になりました。その設置の際には専門の方が来て、給食センターの担当が来て、その講習を受けました。原則その給食センターの担当あるいは各県立学校がそれぞれ食材を持ち寄ってそれぞれで検査をするというふうな方法をとることになります。</p>
平山委員長	<p>これは1日前に検査するんですか。もう少し時間とれないの。</p>
齋藤学校教育課長	<p>原則1日前にやるわけですがけれども、ただその検査の内容も使用頻度の高いものをとにかく順次やっていくと、ですから例えばキャベツならキャベツをある一定の期間でもって計画的にやっていくと、それで異常がない場合には次の食材をまたやっていくと、そういうふうにして順次計画的に進めていくということになります。</p>
平山委員長	<p>1日前というから、間に合わないでしょ。</p>
齋藤学校教育課長	<p>まずその食材の別のものを搬入ということになると時間的には難しいところがあります。</p>
平山委員長	<p>1日前というところがちょっと引かかるのね。これももう少し2日前とかにできないかなど。</p>
芝教育部長	<p>食材は原則その日の朝納入していただくことになっていますし、ものによっては前日に搬入されるものもあるんですけども、できるだけ使うものを検査する、それに近いものを検査するという意味で前日ということにしています。</p>
平山委員長	<p>はい、ありがとうございます。その日の朝だと時間がないからね。分かりました。</p> <p>他に質問ありませんか。</p>
小柴委員	<p>基本的なこと分からないので聞きたいんですが、放射線というとセシウムだけ</p>

	<p>でなくていろんな種類があると思うのですが、どうしてこのセシウムだけを調べるのか、例えばこの前ストロンチウム云々ということでちょっと問題になりましたよね。その他の放射線は問題がなくて、このセシウムだけを調べるのはどういう根拠なのかということを知りたいのですが。</p>
<p>橋本学校教育課 学校給食GL</p>	<p>なかなか専門的なことなので難しいのですが、まずストロンチウムというものを精密に分析するには検出の時間がかかりかかるということを知っています。ですので前日に検査して、その時間内に分かる計測方法がない。あと放射性ヨウ素に関しては現段階ではもう検出されているものがないということを知っていますので、セシウムは半減期が 30 年ということでセシウムに絞って検査するという事です。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>セシウムの半減期が 30 年？</p>
<p>橋本学校教育課 学校給食GL</p>	<p>はい。</p>
<p>小柴委員</p>	<p>私ももう少し勉強をしたいと思います。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>では次に進みます。次に、「中学生議会の開催について」報告を受けることとします。</p>
<p>嶋脇教育指導課長</p>	<p>(資料「中学生議会の開催について」に基づき説明)</p>
<p>平山委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>再質問はなしですか。</p>
<p>嶋脇教育指導課長</p>	<p>再質問はなしということにしております。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>なぜですか。</p>
<p>嶋脇教育指導課長</p>	<p>様々な準備の関係もあるのですが、子どもたちはけっこう間際になって質問を作ってきて、そして本物と同じように庁議を開いて進めていくんですけども、そういう中でなかなか再質問までの準備というのは難しいところがあるのではないかと思います。</p>

平山委員長	子どもたちにはとてもいいよね。勉強になるよね。再質問というのは、受けるほうが大変だということですね。
平山委員長	では次に、「平成24年度八戸市民大学講座（後期）について」報告を受けることとします。
船田社会教育課長	（資料「平成24年度八戸市民大学講座（後期）について」に基づき説明）
平山委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。  （質疑なし）
平山委員長	次に、「平成24年度帰国・新規外国語指導助手（ALT）の交代について」報告を受けることとします。
井上総合教育センター 一所长	（資料「平成24年度帰国・新規外国語指導助手（ALT）の交代について」に基づき説明）
平山委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。  （質疑なし）
平山委員長	では次に移ります。『青少年のための科学の祭典2012』八戸大会について」報告を受けることとします。
井上総合教育センター 一所长	（資料『青少年のための科学の祭典2012』八戸大会について」に基づき説明）
平山委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。
平山委員長	2日間の入場者数が5,000人の見込みとありますけれども、そんなもんですか。
井上総合教育センター 一所长	1番多いときで、2日間で8,000名来ております。ただそのときに、この三八地区でどういう催し物が同時に開催されているか、それから当日の天気がどうなのか、暑い日になるとどうしても海のほうへ子どもたちが向かうとか、その天気とか同時開催のものによって若干動いておりますが、8,000名から少ないときでも

	<p>4,000名弱、3,700～3,800だったと思いますけれども、たくさんのお子どもたちに体験してもらっております。</p>
平山委員長	<p>はい、ありがとうございました。私もここ何年か参加しておりますが、すごくいいもんね。興味がほんと湧きますね。大いに子どもたち参加してもらえればいいと思います。</p>
平山委員長	<p>では次に移ります。その他事務局からの報告事項はありますか。</p>
鳴脇教育指導課長	<p>(資料「いじめの問題に関する指導の方針」に基づき説明)</p>
平山委員長	<p>はい、ありがとうございました。ただいまの報告につきましてご質問などがありましたらお願いします。</p>
平山委員長	<p>私から一つお願いします。今いじめの問題について詳しく説明がありました。いじめとつながってくるものに不登校とか不登校気味ということが出てきますが、何人かの校長先生からの情報なのですが、その不登校及び不登校気味の子どもへの学力保証をどうするかということで、大変苦しんでいるというのがありますが、これにはどういう指導をなさっているのですか。</p>
鳴脇教育指導課長	<p>不登校傾向であっても学校に登校できる子どもたちについては、指導課のほうでやっているスタディサポーター等を活用して個別の指導等もしておりますし、学校のほうでも空いている先生方がその子たちについて指導するというふうなこともしております。またこれはこちらのほうの担当ではないんですけども、センターのほうではうみねこ教室等もございます。学校には行けないんですけども、うみねこ教室のほうに通級して、そこで指導を受けるというふうなことも行なわれております。</p>
平山委員長	<p>うみねこのほうに出向いていく、これはある程度確保されている。学校で困っているのは空いている先生がいない。関わる時間も足りない。それで困っているというのですが、そのスタディサポーターの人数はどうか。</p>
四戸次長	<p>年間を通して今年度は12名、あと後期で6名になっております。</p>
平山委員長	<p>これをもっとぐっと増やせばいいんでしょうけれど。予算上大変なんですよ。</p>



四戸次長	<p>おっしゃるとおりこれは数が多いに越したことはないと思いますが、実はスタディサポーターにつきましては、国の緊急雇用対策の予算を使ってございまして、今年度でこれがなくなるという予定になってございます。したがって、スタディサポーターと同じではないんですが、似たものとして特別支援の支援員ほうは市の単費で予算措置して確保しておりますので、こちらのほうを人数を増やしていけるように。</p>
平山委員長	<p>これは市単独ですか。</p>
四戸次長	<p>そうです。これをまずなるべく増やせるようにということで、今後頑張りたいと思います。</p>
平山委員長	<p>ここ一つ頑張ってもらってね。はい、分かりました。</p>
岡本委員	<p>突然に資料をたくさん用意していただきましてありがとうございました。やはり今大きな問題ですので、この問題については今一つ自分自身が思い出したことがあるのですけれども、私 39 年生まれですけれども私が中学生のときにある期間、女の子がいっせいに私と口をきかないときがありました。そのときはそんなに思っておりましたけれども、こういうことがそういうことなのかなと思いつつもそれが陰湿かどうか、それに対して自分がそんなに敏感ではなかったということや、誰かが口をきいてくれる人もいたので、特にそんなふうになんてだろうとは思っておりましたけれども、そういうときもあるのだなと。ある日いっせいに口をきいてくれるときがきまして、こういうことってすごく嬉しかったのですけれども、そういう心の変化とか、中学生ですので発達段階的に子どもたちがどういうふうになるのかっていうのは、先生方もよくご存知だと思いますが、発達段階から追えばそういう思春期とかいろいろと段階段階でくるということを大人もそう少し理解を深めなければいけない。今その発達段階に関する理解がやはり大人自身が薄いのではないかなと、乗り越えられるときに口を出しすぎるとか、乗り越えようとしているときにちょっと口を出せばいいときに黙っているとかですね。その辺は大人自身もたくさん学ばなければいけないなということを感じております。</p>
	<p>そしてやはり今島脇課長のほうからも課題を出されたように、その地域社会との協力体制ということを私も非常に強く思っておりまして、あるお父様が息子がテレビを見ていたときに、お笑い番組を見ていてある場面で笑ったと、お前はなぜ今ここで笑ったのだというふうに聞いたら、みんなが笑っているから笑ったというふうに答えた自分の息子を見て、ああこういうことってあるのだと、みんなが笑っているからおかしくもなるともないのに笑っているという現状が、自分の我</p>

が息子を見ていて、そういうふうにお笑い番組とか、今盛んに笑い飛ばす番組が多いのですけれども、そういうことも大いに関係しているのではないかというふうに私自身も感じていました。みんながそうだからという気風がそういうことにもつながっていくのではないかと思うと、地域関係者ややはり社会をつくるテレビ局といったら変ですけれども、報道とかやはり責任が大きいなということや、それが全て直結しているということを申し上げているのではなく、社会全体でそういうことを気をつけるという気風を、やはり学校だけ一生懸命もちろんやるのですけれども、家庭も社会も地域社会も自ずと目を向けていくということが非常に大事だなというふうに私なりには感じておりました。この問題についてはちょうど私思っていたところのアンケートの層が薄かったので是非そのあたりも深く関係団体、商工会議所とか青年会議所ですとかさまざまな団体があるとは思いますが、それらの皆さま方にもご理解いただきながら、この問題は社会全体で注視していく必要があるなというふうに私自身感じたのでご意見として申し上げさせていただきます。

小柴委員

今のいじめの問題に関して、これはあつてはいけないなということを感じていますが、その情報をキャッチするのにどういう方法があるかと、これ結構難しい問題があると思います。ケースとすれば被害者、いじめられている本人がもうぎりぎりまで頑張りすぎていると。誰にも知られたくないというか、もう親にも言いたくない、そういうケースもあつて、さりげなく話題を向けても全然それに触れようもしないとかそういうケースもあつて、担任の先生も学校の先生もなかなかその辺把握しにくいと、そういうケースもあるんじゃないかと思えます。その際に、もしその本人でもないし親でもないし、でもあるその同じクラスの生徒の保護者のほうから話が聞こえてきたと、そうなった場合にはやはりそれをきちんと踏まえて教員同士が共有し合うと。その際にそれがなかなか学年主任とか教頭、校長まで行き届いていないケースもあると思います。教員の中でその情報が行き届かない、その辺の一つの方法として学校現場では主任の先生方の会議とかそういうのがあるとは思いますが、学年主任と校長の定例的な報告会みたいなもの、月例の報告会みたいなものを開いてその項目の中にいじめとか不登校とかそういう項目をきちんと作っておいて、それについて定期的に報告させるとそういうことをやれば、まあやっているとは思いますが、やれば学年主任もその報告のためにきちんと把握しなければならないとそういうことになるでしょうから、それも一つの方法かなと。教員同士が情報を共有し合うためにはというようなことをちょっと考えます。

それからそれが残念な結果になってしまった場合、その場合にはやはり情報はオープンにすべきだなと、隠そうというその姿勢はこれは間違いのもとだなと。ただし生徒の保護ということがありますから、その辺のけじめもあるとは思いますが

	<p>ですが、その辺きちんと踏まえた上で情報は皆さんにきちんとやるべきだなというようなこと。先日のいじめの問題、自殺についてそんなことを感じました。</p>
平山委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
武輪委員	<p>アンケート調査に関して文科省のほうから今月末までに向けてアンケートが行なわれると思うのですが、八戸市としてはいつアンケートを実施するというの は今の段階では決まっているのでしょうか。</p>
嶋脇教育指導課長	<p>正式な文書の通知まだ入っておりません。まだ見ておりませんのでそれを見て 対応してまいりたいと思っています。新聞等で少しそのようなこともあったので すけれども、実際の文書はまだ入っておりません。</p>
平山委員長	<p>よろしいですか。</p>
武輪委員	<p>はい。</p>
平山委員長	<p>事務局からは以上のようなようです。 それでは最後に「その他」ですが、委員の皆様から何かございますか。</p>
平山委員長	<p>私から一つお願いします。この前小学校の全体集会という会議に参加しましたが、 帰り道何人かの方々とお話ししたら、キャリア教育の視点で見直せとよく 言われますが、そのキャリア教育ってはっきりしないんだよという話がありましたので、 これを分かりやすく言えばどうなりますか、教えてもらえればありがたい と思います。</p>
嶋脇教育指導課長	<p>昨年度までは進路指導の充実ということで取り組んできていることですが けれども、今年度から文科省のあれを受けて、言葉が変わったというふうなこと になるんですけども、キャリア教育については、基本的には同じように生き方に 関わる教育ということになると思うのですが、私は小学校のほうですので、 例えばキャリア教育というと非常に難しそう感じがして、先生方のほうで キャリア教育というのを何となく自分たちに直接関わっていない感じが する言葉なのですが、例えば小学校のほうでは低学年のあたりであれば自分の 好きなこと得意なことできることを増やして、さまざまな活動に興味関心 を持たせる。普通に学校の中で特活だとか道徳だとか、そういうようなこと で行なわれていることだと思います。ですからこれをキャリア教育だと意識 して指導するのか、今自分は道徳をやっているのだなと思ってしまうのか のその違いだな</p>

とよく思っています。もう少し言うと中学年では友達の良さを認めて協力する活動をする、自分の持ち味や役割を自覚するなどです。高学年では苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組む、集団の中で役立つ喜び、もちろんしたがって委員会の仕事だとか低学年でやらないような仕事についてもやるわけですけれども、その中で自分にとってはあまり好ましい仕事ではないなと思ったんだけれども何とか委員になったので、それは一生懸命それを全うするというふうなこと。そのようなことを通して、小学校のほうの前提になって最終的にはその職業感だとか勤労感などということにつながっていくんですけども、小学校あたりはそのようなことだというふうに。ですから学校訪問等でも話しているんですけども、今年からこのようなものになったのでしっかりと共通理解をして、今自分たちのやっていることの中でいわゆるキャリア教育だということをしっかりと捉えなおせば何もその新しいことをしているのではないというようなことで話をしているところであります。

平山委員長

キャリア教育という言葉の意味が何のかがはっきりしないと言うんだよね。今までと変わったことないんだよ、今までやっていることなんですよと言うけれども、何でキャリア教育という言葉を使うのかね。もっと分かりやすく、分かりやすい言葉に置き換えることできませんかね。びたつといくような。というのは私もこれ本当に困ってましてね。文部省の資料を丁寧に読んでもキャリア教育を置き換える言葉は出てこない。この前、県に行ったら説明する方がずっとやったけれど置き換える言葉を言わないよね。それで最後の最後にぼつとこの言葉は5、6年もすれば消えるだろうと、そして何の言葉になるんだという、生き方教育になるというんですよ。そうすれば分かるんだよね。生き方教育という言葉に変わるだろうと言うんです。5、6年もすれば。青森県の教育委員会は私現職におったとき、一度生き方教育を充実させると謳ったんですよ。それがまもなく消えてしまったのね。それが今またそういうふうなことで言葉を変えればこれだというのです。それならば課長の説明も分かるし、現場の先生方もそれが生き方教育につながるというような形にすれば、すぐにいつでも切り替えたり反省したりできると思います。キャリア教育ってなんだかわからないという先生方がいまして、私が今学んだ範囲での話をしましたけどね。私が今言ったのは県の説明の中に出てきた言葉でした。それならば分かりがいいなという感じがするのです。しかも幼児からでしょ。文部省の資料を見ると、幼稚園、小学校、中学校、高校とずっといくでしょ。ということで分かりやすい言葉で言っちゃえばいいのではないかと思って話題にしました。

四戸次長

今のお話のとおりだと思います。キャリアという言葉自体が、今まで私たちはあの方はこういうキャリアの持ち主だと、つまり今まで生きてきた経歴、そのこ

とを指してキャリアとこうよく使っていたと思うんですね。だけでも今ここでいうキャリア教育のキャリアというのは過去ではなくて未来、自分がこの先どのように生きていくのかということを広く学んでいく。自分はこれから世のため人のためという大げさですけども、社会に出ていったときにどういうふうな力を持って発揮して役立っていけるようになるのか、なればいいのか。そういうところを指導していくもの、ですから全く生き方指導、生き方教育、その生き方の中身になっていくものだと思います。要は生き方というか、一つ言葉を失念しましたが、だから自分で勉強して考えて判断してこうやっていきたい、つまりそれは本当に生きる力と同じことを目指してやっているのだということで、そういうふうに考えていけば分かりやすいのかなというふうに思っています。

平山委員長

いずれにしても私たちも勉強しあって、そして現場に分かりやすく説明してあげなければだぶ混乱している。

あと一点お願いします。それは5月に教科等研究委員のほうに講師として来た秋田の大学の先生、あの資料を私いただきました。まだ十分読んでいませんが、とても中身が良いんだよね。そこでああいう先生をここにお呼びしたのだから、もっと多角的に活用する手はないかということをお話にしたいんです。教科等でお呼びした、それはそれでいいんだけど、もっと校長でも教頭でも一般職員でも勉強したのをここでやるから集まって来いというような。だから私考えていたのはかつて横須賀市でやったという話ですが、東京からいっぱい講師を呼んで夜6時から8時までやるとかね。その資料をもらっている友達がいましてもらったのですけれども、そういうふうな形でも勤務時間外でもいいからこういう先生がせっかく来ているから、やるから希望者来なさいというふうに多角的に活用する方法がないか。私は丁寧に読んだけれども、その方はまだ十分読んでいませんけれどももらいました。あれはすごい中身だから読んだほうがいいですよってもらいましたけれどもね。そういうふうにすばらしい講師を多角的に活用する手はないかということです。

四戸次長

この件につきましては今回は教科等研究委員の先生方を対象としたわけですが、同じ内容であってもお話にあったように例えば校長先生、教頭先生、管理職を対象にした研修会でまた同じ内容でお話していただくということも可能だと思います。これはセンターのほうの研修講座の計画とも絡みますけれども、そういったことがまず一点。あとは許可を得て例えばその時の様子をビデオにとっておいて、例えばそれを何かの機会に見てもらおうとか、そういうふうなことは考えられるのではないかというふうに思います。

平山委員長

お願いは多角的に活用してくださいということですからよろしくお願いま

す。

他に皆さんからございませんか。

それでは長くなりましたが、これをもちまして平成 24 年 7 月教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。

(午後 3 時 26 分終了)